

## 令和6年度 児童発達支援センター 自己評価総括表

○事業所名	四日市市児童発達支援センター あけぼの学園		
○保護者評価実施期間	令和6年 10月 23日		令和6年 12月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 119名	(回答者数) 66名	
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 4日		令和7年 1月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 31名	(回答者数) 31名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と共に子どもへの関わり方を一緒に考えるようにしている。</li> <li>・家庭でもできるような遊びや関わり方を提案している。</li> <li>・親子の愛着関係がより深まるように意識して関わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も親子通園の意義を保護者に伝えていく</li> <li>・研修に参加するなどして、保育士の資質向上をする。</li> <li>・今している具体的な取り組みを、保護者により丁寧に伝えていく。</li> </ul>
2	子どもの発達を促す、多方面からのアプローチをすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な職種が連携を取り合い、ひとりのお子さんについて、一緒に考えている。</li> <li>・様々な身体運動、感覚あそびなどができる環境を用意している。</li> </ul>	
3	保護者支援が療育の中で行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス懇談会などで保護者同士のつながりを作っている。</li> <li>・保護者の状態が把握でき、支援、対応を臨機応変にしている。</li> <li>・お子さんと同じ目線で感じたり遊んだりしている。</li> </ul>	

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・障害児通所施設ということで通園することに抵抗のある保護者がいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルージョンの考え方が、まだまだ浸透しておらず、『学園で丁寧に向き合って過ごす。専門職と関わる』ことで『障害児』と区分けされるとしてしまうのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、障がいのある子もそうでない子も『お子さんがその人らしく地域で暮らすことができる』『保護者がその人らしく子育てができる』世の中になるよう、センターとしての役割を考えていく。</li> </ul>
2			
3			